

<学習指導部会特別支援チーム>

【児童生徒の実態】

- ・見通しを持つことが苦手で、不安をもちやすい児童生徒が多い。
- ・障害の特性や個々の差は大きいですが、書く、話す(発表・会話)等の表現やコミュニケーションに課題のある児童生徒が多い。

【部会のねらい】

- 小中間の連続性のある支援や教育活動の確保を図り、児童生徒一人一人のもてる力を高め、自立や社会参加に向けた主体的な生活ができる力を育てていく。
- ・表現力やコミュニケーション力を高める指導の工夫をする。
- ・他者理解や自己の成長に気付いたり、将来に対するイメージの獲得につながったりするような児童生徒の交流活動の工夫をする。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の教職員間、学校と保護者間における情報交換を通して、相互理解を深め、小・中学校の滑らかな支援の継続を推進する。 ・他者理解や自己の成長に気付くことができるよう、将来に対するイメージの獲得につながる児童生徒間の交流を行う。 ・表現力やコミュニケーション力を高める指導の工夫とプログラムの共有や情報交換を行う。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けさせたい表現力・コミュニケーション力を、教員側がもつことで児童生徒への指導・支援が、より明確になった。授業のみではなく、日々実践を重ねることで教員側も習慣的に実践を行うことにつながった。児童生徒の変化も少し見られている。 ・6年児童と保護者の中学校支援学級授業参観と保護者説明会を7月に行ったことで、児童にとっても中学校生活について考えるよいきっかけとなった。中学生にとっても、成長した姿を見せるよい機会となった。 ・児童同士、生徒同士の関係性構築にもつながった。 ・小学校の生活の様子を聞いたり見学したりすることにより、中学校で身に付ける力について、継続した指導計画を立てる参考になった。 ・中学校区での合同レクリエーションは、児童と生徒をつなぐよい機会であった。教員も、実態を把握することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教員が、小学校での学習内容やその児童の発達段階の把握に努め、教科の指導へ生かす。 ・日常生活でも、自分の言葉で表現をする力を身に付けていけるような指導の工夫をする。 ・実践の共有の頻度を多くする。

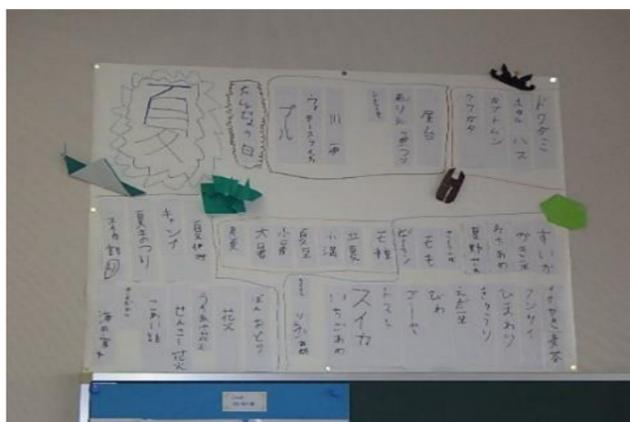
四季を通じた季節ならではの習わしや行事、その季節からイメージしたものを言語化する(小学校)



言葉を伝え合う



春をイメージした言葉



夏をイメージした言葉

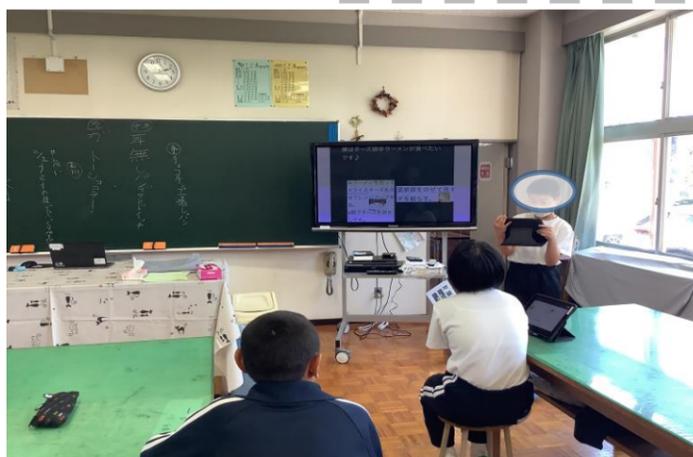
教室に安心のできるスペースを皆で作る(小学校)



合同レクリエーションに向けたレクリエーション(小学校)



調理実習のメニューのプレゼンを行い、投票で決める(中学校)



決められた食材からメニューを考え、プレゼンテーションを作成し、発表